博士前期課程　ジェンダー社会科学専攻
博士後期課程　ジェンダー学際研究専攻

試験日程

博士前期課程9月入試
出願期間：2023年7月24日（月）から2023年7月26日（水）17時必着
入学試験：2023年9月3日（日）
合格発表：2023年9月8日（金）正午

博士前期課程2月入試
出願期間：2023年12月18日（月）から2023年12月20日（水）17時必着
入学試験：2024年2月5日（月）・2月6日（火）
合格発表：2024年2月13日（火）17時

博士後期課程3月入試
出願期間：2023年12月25日（月）から2023年12月23日（水）17時必着
入学試験：2024年3月4日（月）・3月5日（火）
合格発表：2024年3月11日（月）17時

○ 入学願書の配付から合格発表にいたるまでの入試に関する問い合わせ
入試課　03-5978-5697　nyushi@cc.ocha.ac.jp
○ 奨学金等学生への経済援助、学生寮に関する問い合わせ
学生・キャリア支援課　03-5978-2646　gakusei@cc.ocha.ac.jp
○ 大学院のカリキュラムに関する問い合わせ
学務課　大学院担当　博士前期課程　03-5978-5822　kyomu@cc.ocha.ac.jp
博士後期課程　03-5978-5821　kyomu@cc.ocha.ac.jp
○ 入学後の留学に関する問い合わせ
国際交流課　国際交流担当　03-5978-5722　ryu@cc.ocha.ac.jp
○ 外国人研究生の受け入れに関する問い合わせ
国際交流課　留学生担当　03-5978-5143　ryu@cc.ocha.ac.jp
○ そのほか前期課程のカリキュラム等については、専攻長の小林までお問合せください
kobayashi.makoto@ocha.ac.jp

博士後期課程

ジェンダー学際研究専攻

http://www.dc.ocha.ac.jp/d/gender/index.html

本専攻は、本学21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」の採択をうけ、前身の人間発達科学専攻ジェンダー論講座からの歴史を受け継ぎ設置された、博士後期課程においてジェンダーの視点から学際研究の確立・重点化をはかる日本で初めての専攻です。専攻の教員は、それぞれの学問領域を土台に現代の社会的課題を分析する授業内容を提供しています。

国内の大学におけるジェンダー研究教育の需要が近年拡大している一方で、各専門分野でジェンダーの視点をもつ研究教育の担い手は、圧倒的に不足しています。本専攻は、このような空白を埋めるべく、ジェンダーの視点を持って創造的な研究活動を行う次世代の研究者を育てる、またアジアから優れた研究を世界に発信できる研究教育活動の拠点を日本に形成することを目的としています。学際的・国際的な視野に立ってジェンダーの視点を中心に研究を推進する、意欲ある院生および社会人の応募を歓迎します。

本専攻の教育目標は、現代の社会的課題にジェンダーの視点から取り組む学生が、専門分野における理論と実証両面の研究能力を高めると同時に、学際的なアプローチを通じて多角的でより独創的な研究を展開するための識見を培うことです。その先に、最大の目標になる学位の取得がありますが、学位申請論文を提出するためには、履修上の要件を満たすことのほかに、論文や学会報告など、さまざまな場で研究成果を発表していくことが求められます。本専攻では、学位申請論文の提出までに、課程博士の場合、原則として論文3本（うち査読付論文2本）、論文博士の場合、同4本の発表を条件としています。それにあたり、関連組織とも連携しながら独自の研究支援を行っています。

これまでの修了生の博士論文は、ジェンダーの視点を中心に既存の学問分野に新たな視点を提示した事が評価され、ジェンダー法学会賞、女性史学賞、人文地理学会賞、経済地理学会賞、河上肇賞、尾中郁夫・家族法学術奨励賞などを受賞しています。

□専攻独自の研究支援

①公募研究や学振特別研究員などへの申請スキル向上の支援

院生支援のための公募研究や、研究上のスキル向上を目的としたワークショップなどを開催していきます。

②学術刊行物

院生が投稿できる査読付き学術雑誌として、本学ジェンダー研究センター刊行の『ジェンダー研究』と本学大学院の刊行する『人間文化創成科学論叢』等があります。

□ 博士論文題目例

- 女性の就業と出産―出産後のキャリアに着目した実証分析
- 住宅弱者の生活再建における可視化しづらい困難―DV被害者とホームレス経験者の事例から
- 男性性と有配偶者の家事・育児遂行―ケアする男性性に着目して
- 核家族世帯における子どもの家事遂行―親の家事遂行と親子のコミュニケーションに着目して
- 子どもを持つ意欲と実現:ドイツの大規模パネルデータ分析から
- 精神障害者の「地域移行」における生の技法とケアの場所
- 「なんとかやる」ことで創られる日常―現代アルジェリア女性の有償家内労働にみる実践的戦術
- ケイパビリティ・アプローチ実践のための一試論―未婚女性非正規雇用者の生活の質の検討を例に
- 求職者支援訓練のジェンダー分析：受講者のエンパワーメントの視点から

□ 「国際交流プログラム」

ジェンダー社会科学専攻の院生は、ジェンダー研究所とタイのアジア工科大学院大学（AIT）が共同で提供する国際教育プログラム、「AITワークショップ」に参加することができます。2001年から毎年実施しており、ジェンダーを研究の軸にしてお茶大側からは主に博士前期課程の院生がAITでの演習やフィールドワークに参加し、AITの院生が日本を訪れ研修しつつ、研究交流を行なっています。将来、NGOや国際機関、国内外を問わず男女共同参画推進諸機関で働きたい方、あるいは研究者として、実践家としての視野を広げたい方には得難い経験になると思います。

具体的には、http://www2.igs.ocha.ac.jp/ait/ をご参照ください。

□ 両専攻のキャリアパスと進路

◆博士前期課程→就職

家庭裁判所調査官、内閣府、総務省、国立国会図書館、長野県庁、横浜市、短大専任講師、高校教員、海外協力隊、リクルート マネージメントソリューションズ、ソニー、日本経済新聞社、時事通信社、富士通総研、日本総研、大和総研、リンクアントモティベーション、楽天グループ、アンダーソン毛利友常法律事務所 など

◆博士前期課程→本学後期課程進学→就職

大学教員等(茨城大学・岩手大学・立教大学 ・ 横浜国立大学 ・実践女子大学・福岡女子大学・天理大学・神戸学院大学・松本大学・帝京平成大学・ノッティンガム大学・明海大学・立命館大学・同志社女子大学・ロシア高等経済学院の教員、国立社会保障・人口問題研究所研究員 など)

◆博士前期課程→他大学後期課程進学(東京大学・一橋大学・ロンドン大学・エディンバラ大学 など)

◆他大学博士前期課程→本学博士後期課程→就職

大学教員等(東京外国語大学・日本大学・アモイ大学・フランクフルト大学・メキシコ国立自治大学・奈良教育大学・法政大学・国際ファッション専門職大学の教員、国立女性教育会館専門員 など)

博士前期課程

ジェンダー社会科学専攻

http://www.dc.ocha.ac.jp/m/gender/

□ 特色

ジェンダー視点を手がかりとして、既成の学問体系とその所産を反省的に見直し、女性・家族・地域・国家などにかかわる諸現象をグローバルな視野のもとで学際的に解明する分析力、生活の場で直面する具体的課題から出発してその解決に向けて提案する実践力の涵養を目指します。

そのために以下のような3つの科目群が用意されています。

＊ジェンダー研究科目群＝ジェンダー研究の基礎から最先端までをカバーする多彩な科目群。ジェンダー論を集中的に学び、社会や文化の諸問題に対する批判的な思考力を磨くことを目指します。さらに、より高度なジェンダー研究へと進む経路ともなります。

＊専門科目群＝地理学、人類学、地域研究、開発学、法学、政治学、経済学、社会学などの各学問分野における専門的科目群。個別ディシプリンを基礎から発展のレベルまで体系的に修得するためのカリキュラムです。

＊学際方法論科目群＝視野を広げ、方法論を磨く科目群。分野の異なる複数教員による学際共同演習や調査法（量的、質的、フィールドワーク等）に関するコースワークなどを提供します。研究を進める前提として、広角の視野と厳密な方法を身につけてもらうことが目的です。

この3つの科目群から、各自のテーマ等に応じて様々なパターンで科目選択ができます（下記履修モデル参照）。
また、国内外のジェンダー研究の拠点や海外協定校UNDPなど国際機関とも連携して多彩なカリキュラムを提供します。
本学出身者はもちろん、多くの留学生・他大学出身者・社会人院生が切磋琢磨して学んでいる専攻です。

□ 履修モデル

1. スタンダードな国際関係の社会科学的研究を志向する院生。「ジェンダー学際共同演習Ⅰ」でも国際関係の演習を選択。コンサルや商社など、国際的業務を志望して就職。

■ジェンダー研究科目群
必修「ジェンダー基礎論」
選択必修「ガバナンスとジェンダー」
選択必修「ジェンダー立法過程論」

■専門科目群
選択「グローバル政治経済論」
選択「開発研究実践論」
選択「地域社会文化論」
選択「開発経済学」

■学際方法論科目群
必修「ジェンダー社会科学論」
選択必修「研究方法論コースワーク（質的調査法）」
選択「ジェンダー学際共同演習」（テーマに応じて履修）

■修士論文
必修「特別研究」

2. 研究テーマ「ジェンダーと都市空間」
女性就業やワークライフバランスといったジェンダーと関連するテーマに、都市における居住地選択の要素を加味することで地理学的にアプローチする学生のための履修モデル。

■ジェンダー研究科目群
必修「ジェンダー基礎論」
選択必修「ガバナンスとジェンダー」
選択「社会保障とジェンダー」
選択「ジェンダー統計論演習」

■専門科目群
選択「社会環境学」「同演習」
選択「地域社会文化論」「同演習」
選択「地域経済論」「同演習」
選択「生活経済論」「同演習」
選択「生活福祉論」「同演習」
選択「労働と社会政策」「同演習」

■学際方法論科目群
必修「ジェンダー社会科学論」
選択必修「研究方法論コースワーク（量的調査法）」
選択必修「研究方法論コースワーク（質的調査法）」
選択「ジェンダー学際共同演習」（テーマに応じて履修）

■修士論文
必修「特別研究」

3. 研究テーマ：女性と雇用に関する政策課題
女性が働くということの意味をめぐる現場の体験論にもとづき、現在の雇用政策の分析と課題を研究する学生のための履修モデル。

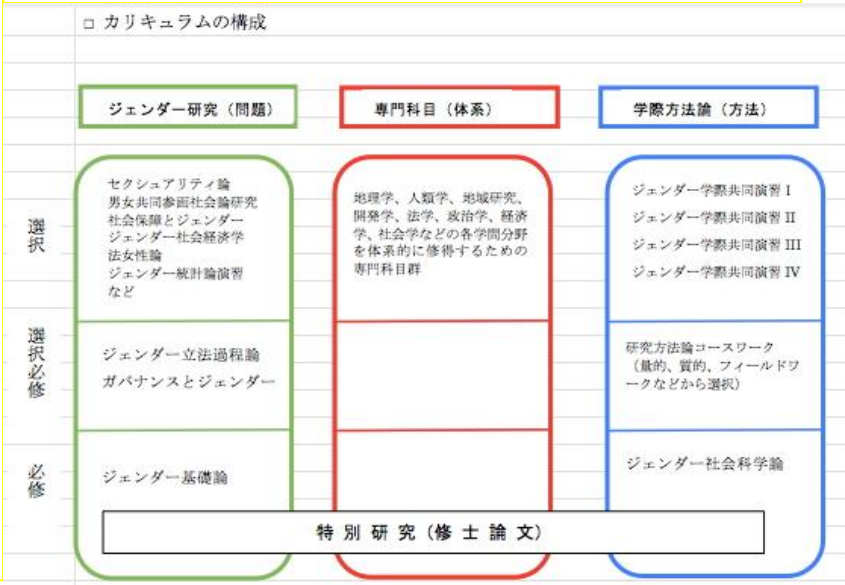
■ジェンダー研究科目群
必修「ジェンダー基礎論」（ジェンダー論分析の基礎を学ぶ）
選択必修「ジェンダー立法過程論」（ジェンダーに関する政策の批判的検討）
選択「社会保障とジェンダー」（日本の社会保障のジェンダー側面からの分析）
選択「男女共同参画社会論研究」（女性政策の現状とアクチュアルな課題を検討）

■専門科目群
選択「労働と社会政策／労働経済論演習」（女性労働についての研究）
選択「生活福祉論」（子どもの福祉の国際比較）

■学際方法論科目群
必修「ジェンダー社会科学論」（研究テーマの中間発表など）
選択必修「研究方法論コースワーク（質的調査法）」（インタビューの手法など）
選択「ジェンダー学際共同演習」（その年度の内容に応じて適宜履修）

■研究科全体の共通科目より
選択「経済政策特論」（経済理論の習得）
選択「アカデミック女性リーダーへの道（基礎編）」（現役女性リーダーたちの実体験に学ぶ）

■修士論文
必修「特別研究」



ジェンダー社会科学専攻／ジェンダー学際研究専攻 教員名簿

令和５年４月１日現在

担当教員		専門分野	研究テーマ	後期課程の担当
教授	大森 正博 omori.masahiro	医療・介護、社会保障の経済分析	医療・介護制度を資源配分、所得配分の観点から分析し、望ましい医療・介護制度のあり方を考える。医療・介護制度の国際比較も行う。	人間発達科学
〃	小谷 眞男 kotani.masao	比較法社会史、トランス・サイエンス論	〈生活〉の比較法社会史・法文化史。法と社会学や人文学の接点に関心があり、特にイタリアを専門的フィールドとする。最近は、トランス・サイエンス論、すなわち「社会のなかの科学」というテーマにも取り組んでいる。	人間発達科学
〃	小林 誠 kobayashi.makoto	グローバリゼーションによる世界変容の研究	グローバリゼーションによる国際システムの変容を理論的・実証的に研究。特に、非国家アクターが台頭し、地球市民社会が形成され始めて、中央・周辺関係が変化する一方で、新たな暴力の形態が生まれていることに注目。	ジェンダー学際
〃	斎藤 悦子 saito.etsuko	家事労働の社会化、生活資源のマネジメント	労働力再生産領域を軸に、家計、生活時間、生活資源の配分をジェンダーの視点から検討する。最近は、家事労働の社会化に関して家庭内で使用されるテクノロジーに焦点をあて、人間の主体性や自立性とそれがいかに関わるのかを探求している。	ジェンダー学際
〃	申 琪榮 shin.kiyoung	比較政治学、ジェンダーと政治、 フェミニズム理論	ジェンダーと政治、政治的代表制の比較分析、東アジア国際政治と市民運動、 フェミニズム理論などをテーマをする研究。	ジェンダー学際
〃	棚橋 訓 tanahashi.satoshi	文化人類学、オセアニア民族誌学	文化人類学の視点から、近現代の異文化混淆の過程に生じるジェンダー秩序の再編に関する研究、社会変動とセクシュアリティ変容に関する研究、「第三のジェンダー」に関する研究を行っている。主なフィールドはオセアニアと日本。	ジェンダー学際
〃	永瀬 伸子 nagase.nobuko	就業と家族、社会的保護に関する研究	就業行動、家庭内生産活動など、仕事をめぐる選択行動を経済理論を用いて分析の枠組みをつくり、先験的な予想を立て、統計等を用い実証的に分析することを専門とする。主な領域は「仕事」の選択行動であるが、出産、教育、結婚等の選択もこの枠組みで扱うこともできる。	ジェンダー学際
〃	西村 純子 nishimura.junko	家族と仕事の社会学	家族関係の変容とそのダイナミクスに関する実証的研究。特に、仕事と 家族生活、子育てに関わる現象についての社会学的研究をおこなっている。	人間発達科学
〃	＊水野 勲 mizuno.isao	経済地理学、 地理的不均等発展論	資本主義の政治経済学、地域統計の分析、立地論を通じて、地理的不均等発展の説明を行っている。フェミニスト地理学における量的研究と 質的研究の議論にも関心がある。	ジェンダー学際
〃	宮澤 仁 miyazawa.hitoshi	福祉の地理学、GIS、都市地理学	人口減少・少子高齢化に伴う都市・地域の問題を地理情報システムと地域分析手法を用いて分析し、生活・福祉の視点から課題解決に取り組む。	ジェンダー学際
准教授	荒木 美奈子 araki.minako	開発研究、アフリカ地域研究	アフリカ（主にタンザニア）をフィールドとし、グローバル化や開発政策・実践と地域住民との相互作用に焦点をあて研究を行っている。内発的発展、持続可能な開発に関心があり、グローバルとローカルの双方から持続可能な社会に向けての道筋を探求している。	ジェンダー学際
〃	大橋 史恵 ohashi.fumie	東アジアにおける移動とジェンダー、再生産労働	移住家事・ケア労働者の就労や生存をめぐる諸課題や彼女たちの社会運動につい て、主に中国・香港・台湾・日本でフィールドワークをおこないながら研究を進めている。またポスト冷戦期東アジアのジェンダー秩序や、そのなかで生起するトランスナ ショナルなフェミニズム運動にも関心をもっている。	ジェンダー学際
〃	倉光 ミナ子 kuramitsu.minako	文化地理学、 オセアニア地域研究	オセアニアの島嶼社会をフィールドに、国際開発や国際移動が文化・社会に与える影響についてジェンダーの視点から研究を 行なっている。最近は移動と場所、国際結婚、フェミニスト地理学の議論にも関心を持っている。	ジェンダー学際
〃	ﾃﾞｱｳｶﾝﾀﾗ ﾏﾙｾﾛ marcelo.de.alcantara	家族法、生殖補助医療と法	親子法について、特に生殖補助医療に関連して生じた諸問題に関する研究を行っている。日本の家族法と諸外国の家族法との比較研究も行っている。家族法と国際化、家族法とジェンダー、医学の発展に伴う「生命倫理と法」の問題にも関心がある。	ジェンダー学際
〃	豊福 実紀 toyofuku.miki	政治学、公共政策	政治学の観点からの公共政策研究。とくに日本の税制と、女性の働き方や社会保障政策との関係に注目している。	ジェンダー学際
〃	長谷川 直子 hasegawa.naoko	自然地理学、地理の一般普及	気候変動（とくに温暖化）が湖に与える影響の解明。歴史時代の文書記録から過去の気候を復元する。地理学全般のアウトリーチに取り組む。	ジェンダー学際
助教	＊＊ キャロル マイルズ myles.carroll	国際政治経済、比較政治経済	日本を含め主に先進国における政治経済秩序やその下支えとなる統治関係を研究する。また、世界各国と国際レベルの経済、政治，社会および環境問題や、それにより引き起こされるジェンダー、エスニシティ、階級等による矛盾に注目。	未担当
〃	＊＊脇田 彩 wakita.aya	社会調査法、社会階層論	社会階層とジェンダーによる不平等について、主に量的社会調査により研究している。現在は、職業威信とジェンダー、女性の経験する階層再生産に注目している。	未担当
教授	（小玉 亮子） kodama.ryoko	ジェンダー理論、ジェンダー史、比較文化/社会史	次世代育成に関わる文化の総体を教育文化ととらえ、幼児教育と家庭教育を中心とした比較教育文化／社会史的研究を行っている。	人間発達科学

教員のメールアドレスは名前の下に記載されているアルファベットの後に@ocha.ac.jp をつけてください。

＊印の教員は 2024 年 3 月末日で退職予定の教員である。

＊＊印の教員は主任指導教員として志望できない。

氏名に（　）のある教員は前期課程・後期課程ともに他専攻の教員で、後期課程の授業科目のみを兼担する。ただし、本専攻前期課程・後期課程ともに主任指導教員として志望することはできない。